

車いすでも積極的に外出を、市役所訪問ミニツアーを体験／綾瀬市

神奈川新聞 2010年11月17日



介助を受けながら車いすです役所内をめぐり、写真展で作品を眺める参加者＝綾瀬市役所

車いすを使う身体障害者も外出しやすい町づくりに役立てることを目的にした試みが17日、綾瀬市役所で開かれた。「市地域自立支援協議会・身体障害部会」の主催。車いす利用者6人が参加し、市職員らの介助を受けながら、バスの乗り降りや市役所内を訪ねる”ミニツアー”を体験した。

試みの実施は、同協議会が市内在住の身障者に行ったアンケート。家族や周辺に負担になることを心配して「外出しにくい」との意見が多く寄せられた。

この日、参加者は、スロープを設置できるコミュニティバスに実際に乗り込んでから、車内で固定してもらうまでの一連の作業を体験。このほか、市役所の中では、7階まで上がって写真展に足を運んだ

り、トイレに入ったりするなど、さまざまな場所をまわった。

自身も車いすで生活をおくる同部会長の西川和朗さん(60)は「このような機会を通して、障害者への理解が深まり、バスなどの利用にも遠慮するようなことがなくなってくれば」と話していた。

今後は、視覚障害者などにも参加対象を広げて、同様の試みを行っていくという。